



2004 年 奈良県 No. 5

老施協 あおぼし

もくじ

- 本人、家族とともに学ぼう 1
- 委員会等活動状況報告 2
- 施設訪問 3
- 話のひろば 6
- デイサービス特集 8
- 新施設紹介 10
- 編集後記 11

発行所 奈良県老人福祉施設協議会 発行者 辻村 泰範 事務局 0744-29-0100

「本人、家族と ともに学ぼう」

奈良県老人福祉施設協議会

会長 辻村 泰範

昨秋、仙台市の東北福祉大学を会場に、第四回痴呆ケア学会大会が開催され参加の機会を得た。

厚生労働省の老健局長の私的諮問機関である高齢者介護研究会が「二〇一五年の高齢者介護」と題する報告書を提出し、今後の高齢者介護のあるべき方向性を示したのは昨年六月である。その中で、これからの介護は、身体ケアのみではなく、痴呆性高齢者に対応したケアを標準として位置づけていくことが必要であると提言している。

先の学会でも、有意義な発表が数多くあったが、多くの関係者が指摘したのは早期発見と早期対応の重要性である。痴呆という病気が予防できるかどうかの議論はおくとして、少なくとも進行を遅らせるという点で有効なことは数多くあるようだ。早期対応という点では、この病気について患者自身が学ぶこと、家族と介護を提供する関係者が一緒になって学ぶことの重要性が説かれたのが心に残った。

介護は我々の仕事として、その知識や技術を本人には勿論、家族にも充分には伝えていなかったかも知れない。介護者教室は開いても、我々はともに学ぶということに欠けていたかもしれない。

委員会等活動状況報告

運営管理研究委員会

「あおによし」四号において報告しましたとおり、運営管理研究委員会では会員施設における運営（経営）実態調査を中心として活動しております。これまでの経過を報告いたします。

まず六月二十四日に、県社会福祉総合センターにおいて委員会を開催し、運営（経営）実態調査の方法やスケジュール、調査票の内容等について協議しました。そしてこれを踏まえて、七月八日付けで全会員施設に宛て、運営（経営）実態調査の調査票の記入と資料提出の依頼を行っております。

調査書の分析は、過去二回の調査に引き続き、中野公認会計士事務所にお願いたしました。十月末に「平成十四年度運営（経営）実態報告書（案）」をご提示いただき、運営管理研究委員会の各委員からのご意見等による修正を経て、十二月には最終の報告書をまとめていただき、各会員施設宛に送付しております。

今年度は昨年と同調査よりも四法人多い三十六法人から、決算書の資料提出をいただきました。昨年度よりも締切日を早めに設定したにもかかわらず多くの協力をいただき、おかげ様をもちまして昨年度よりも約二ヶ月早く報告書ができましたことにつき、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

研修委員会

I 第十六回奈良県老人福祉施設職員研究会
地元での開催を望む会員の皆様の声を取り入れ、県内（橿原市）で開催！

期 日：平成十六年一月二十八日（水）
二十九日（木）

会場：橿原ロイヤルホテル
テーマ：『心とこころをつなぐ介護をめざして』
—その人らしい生き方を—

実現していただくために—

各講演の講師／分科会趣旨

講演 I：辻村泰範氏
（奈良県老人福祉施設協議会会長）

記念講演：市川禮子氏
（社会福祉法人尼崎老人福祉会理事長）

講演 II：田和貞保氏
（奈良県解放センター事務局長）

分科会：参加者の施設種別や職種を特定せず、施設・職種混合の七分科会
で実施

II テーマ別研修会
第一回研修会

開催時期：平成十六年二月十七日（火）
午後二時から

会場：橿原万葉ホール
テーマ：口腔ケアに関する研修
講師：小向井英記氏
（服部記念病院歯科口腔外科医長）

第二回研修会
開催時期：平成十六年三月十六日（水）

会場：奈良県社会福祉総合センター
テーマ：痴呆性高齢者への対応について
講師：師 師：塩崎弘章氏
（特別養護老人ホーム祥水園施設長）

大会運営委員会
大会運営委員会では本年度、次の事業を実施いたしました。

①、第三十二回施設老人福祉大会
九月十日、県立橿原体育館において奈良県知事

を始め多数の来賓のご臨席のもと、県内各施設利用者、職員、ボランティア等、総勢一三三〇名

が集い、式典とアトラクションを開催いたしました。アトラクションでは、歌謡ショーや河内音頭に合わせて踊りも楽しめました。

②、施設職員県外研修会
十月八日～九日、十五日～十六日、二十二日～二十三日の三回に分けて南信州、昼神温泉にて開催致しました。一日目の研修では初めての試みとして、職種別に小グループに分かれてフリートークディスカッションを行い、施設間での情報交換や意見交換などを通じて交流を深めました。参加者は二二五名でした。

③、施設長連絡会議（県外）
十一月十一日～十二日、淡路島「ホテルニュー淡路」にて開催致しました。参加者は三十名でした。一日目は施設長連絡会の後、「福祉サービス第三者評価」をテーマとして、評価を実施する側の大阪府社会福祉協議会福祉サービス第三者評価センターの叶井泰幸氏と、評価を受ける側の大阪老人ホームの施設長、杉村和子氏を講師にお招きし、それぞれの見地からのお話しを伺いました。

また、二日目には会長からの問題提起を受けて、施設種別に分かれての意見交換と報告会が行われました。

いずれの事業につきましても、会員の皆様方のご協力により無事に終了することができました。改めて感謝申し上げますとともに、今後の各事業実施にあたってのご意見やご要望等がございましたら事務局までお聞かせ下さい。

在宅サービス委員会
第一回委員会を、九月十五日（木）あくなみ苑にて開催し、十一施設の施設から委員が参加しました。その内、デイサービスセンター寿楽の山下安久氏を副委員長に選任し、続いて今後の委員会の方向性について協議を行いました。

今年度は、会員施設が実施するサービスマスター事業の把握を行うことを目的にアンケート調査を行うことを計画しています。その方法については、担当副会長である祥水園の塩崎施設長より、過去実施した同様のアンケートでは回答率が非常に低く集計が困難であったとの助言があり、調査に先行した会員の皆様への説明と協力依頼が必要であると考えています。また、次の段階として予定している事業内容別の研修会（勉強会）にもつなげられるような内容が望ましいとの意見もあり、今回の委員会に向けてアンケートの調査票を作成することになりました。

本年度は、前述したアンケートを実施し、その集計結果を会員の皆様に報告するとともに、研修会の前段として、実施数の少ない在宅サービスマスター業者が集まった会合を開きたいと考えています。

以上の在宅サービスマスター委員会での事業推進にあたっては、会員の皆様にご協力いただくことが多々あると思いますが、その節にはご理解とご協力をよろしくお願い致します。

職員の仕事による研究活動事業

今年度からの新規事業である「職員のワーキングチームによる研究活動事業」は、二十二施設から四十二名の参加者を得て、七月二十三日に奈良県社会福祉総合センターで第一回目の会合を行って、実質的なスタートを切りました。以後、各チームごとに五、七回の会合をもちながら、それぞれの研究課題に取り組んでいます。

ワーキングチームは次の五チームです。

- ①チーム名…「ユニット新撰組」

実践について

- ②チーム名…「こころ」

参加者数…介護計画と記録のあり方について

- ③チーム名…「ゆりかご」
- ④チーム名…「効運チーム」

施設訪問

会員施設を紹介するコーナーです。各施設の特徴を自己紹介して頂きました。

養護老人ホーム 三 室 園

養護老人ホーム三室園は、当初、昭和三十二年一〇月に定員五〇名で設立され、昭和四十二年六月に定員を七〇名に、昭和五十年四月には、定員を一〇〇名に増床し、平成十四年度に大規模改修を行い現在に至ります。

当園は、虎を奉ることと有名な信貴山の山々に囲まれ、風向明媚な観光地にあつて、すぐ近くには、ひょうたん型の「とっくり湖」があり、吊り橋がかけられています。その周囲は、散歩道となっており、春は桜、秋は紅葉を満喫できる環境にあります。現在、一〇〇名の入所者が、日々、健やかに、楽しく生活を送っております。春には園内に植樹されており桜の観桜会、夏には七夕盆踊り、秋には、運動会、もみじ祭り、冬にはクリスマス会、餅つき大会、また、一泊旅行や日帰り散策、各クラブ活動や近隣のボランティア団体幼稚園、小中学校生との交流、各団体の慰問など

- ⑤チーム名…「The委託」

の行事に日々楽しい生活を送っております。自由と人権を尊重した処遇を行い、深い愛情と誠意を以って、入所者が心豊かに、健やかな日々を過ごしていただける施設であるよう努力していきたいと思っております。



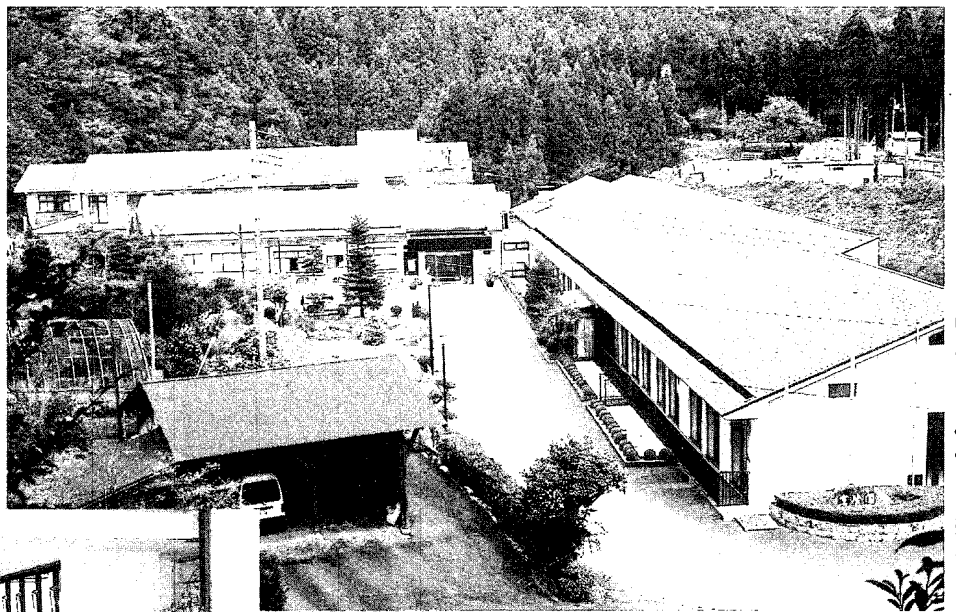
特別養護老人ホーム ひびきの郷



社会福祉法人天寿会、特別養護老人ホームひびきの郷は、その名称通り音楽がなり響く館。「音楽をもって入居者の方々にリハビリを！」が開園の理念であり、「うれしい時、楽しい時、さみしい時、悲しい時、ハートモーのしらべは心をやわらげる。音楽でひびきあう心と心『和』」をモットーに、音楽療法を展開し、十六年間、ようやく入居者が、いきいきとした毎日を過ごせるだけでなく、徘徊癖がなくなり、精神的に安定されるといった改善も見られ、「ミュージック・セラピー」の効果は確実に現れています。

もう一つの取り組みは「ユニットケア」。入り口は「あたりまえの生活」、そして出口は「地域」昨日まで生活していたその延長に施設があります。たとえば入浴は三六五日実施、夜間入浴はマンツーマン介護で、食事も四ユニットごとに入居

特別養護老人ホーム 室生園



「人と人が助け合い、愛し合い、尊敬し合うために。」を法人の基本理念として、女人高野室生寺のお膝元に昭和六十三年、関係各位の多大なご支援のもとに施設が設立されました。この地は室生赤目青山国定公園内で、清らかな水と新鮮な空気が満喫でき、古来より四季の移ろいを静かに感じられる神々の宿る聖地として大勢の人々に愛されて参りました。春は梅や桜が始まって、やがて石楠花や新緑に彩られ、夏の日差しも聳える樹林を



軽費老人ホーム
祥水園

者がお米を磨ぎ、配食をし、配膳・下膳をされるというあたりまえの生活をして頂いています。一日一日がゆつくり過ぎていく、「寄り添いケアの実施」をさせて頂きながら、又「食」への挑戦「食による癒しのサービス」薬膳料理を導入（味付けは日本風にアレンジ）。きっかけは台湾最大の製薬会社経営者との出会いで、彼も台湾初の特養二〇〇床を設立し、お互いに福祉活動を通じて行き来するうちに、薬膳を取り入れようとのアイデアから、今では週二回実施し、入居者にも大好評です。

「すべての答えは現場にある」を基本にスタッフ一同時代の変化に対応し、努力していく所存であります。

「常にご利用者の声に耳を傾ける」
をサービス提供の方針として

五十名定員の軽費老人ホーム祥水園は、昭和五十一年二月一日、特別養護老人ホームとともに設立されました。法人全体ではその後、在宅関係の事業も暫時、開始しています。軽費では平成三年に全室個室に改築し、各居室前には花壇をつくりました。好みの花を植え、丘陵地を耕して野菜などを栽培し、敷地でとれる栗、筍、梅、柿をとり、季節の移り変わりを満喫しておられます。ツバメが巣立つのを見送り、雉が食堂の前に来るのを迎え、野鳥が窓辺で何かをついばんでいるのを見るにつけても豊かな自然の営みを感じられる場所です。

生活のくつろぎの一時として、トロン温泉に毎日入って頂き、心身を癒して頂けます。

時代の移り変わりで、利用者平均年齢も高齢化していますが、ご自分の居室を拠点としてQOLの高い生活を営んで頂けるよう、従来行っている催し事も、ご利用者の声を聞きながら新しいクラブ活動や設備、サービスの充実を行い、その内容の評価し、継続的改善を行っています。

透かして優しくそそぎ、川面を涼風がわたり、秋には山々が紅に染まり、そして冬には凜とした空気が身も心も引き締めてくれます。

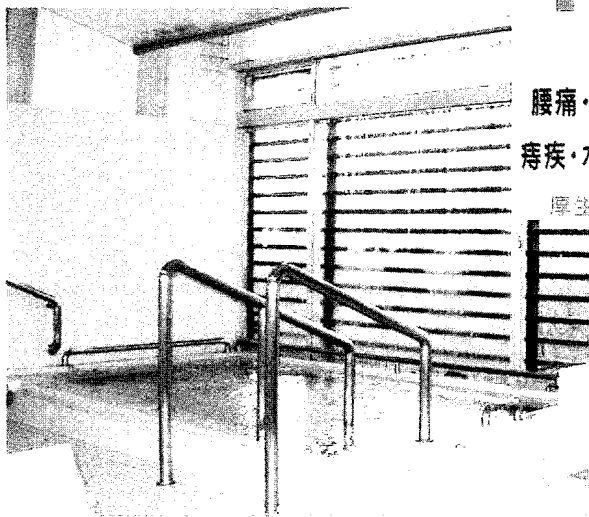
室生会では九十名の方がお住まいの特別養護老人ホームを核として、デイサービス、ショートステイ、訪問入浴、居宅支援の各介護保険サービスと、在宅支援、配食サービスを行っております。法人にご縁をいただいたご利用者様、ご家族様、地域ボランティアの皆様、そして職員が共に楽しくて、意義のある人生をお送りいただくことを願って日夜研鑽を重ねております。お近くにお越しの節にはどうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

トロン湯

厚生省認定効能効果

腰痛・神経痛・肩こり・うちみ・くじき
痔疾・水虫・冷え症・しもやけ・疲労回復

厚生省 承認番号(37D)第236号



話のた場

最前線で活躍する皆様から、各施設の専門的な取組を紹介します。



養護老人ホーム 聖ヨゼフホーム

「みんな楽しみ・秋の収穫祭」

聖ヨゼフ・ホームは、奈良県御所市の自然環境に恵まれた静かなたずまいの中にあります。季節の移りかわりを実感していただきながら、家庭的な雰囲気の中で五十名の利用者さん達が生活されています。今回は、秋の恒例行事「秋の収穫祭」についてご紹介させていただきます。

当ホームでは、毎年十月下旬には五月に植え付けた「さつま芋」を、利用者・職員・ボランティアの方達みんなで一緒に収穫をします。暑い盛りに汗をいっぱいかきながら、黙々と草取りをする者、またそれをあたたくく労う者、個々のADLに合わせて参加できる範囲にて、何らかの関わりを持っていただくようにしております。平成十五年度の収穫祭もそれは盛大に行われました。

「大地の恵み」「労働の実り」「収穫の喜び」に参加者全員にて感謝をし、大変おいしく焼き芋をいただきました。また、みんなが大好きな「たこ焼き屋さん（移動車）」にも来ていただき、収穫祭・ボランティアの方達との交流会・お誕生会と大いに盛り上がり、終始笑顔の絶えない催しとなりました。総勢八十名と大勢で収穫の喜びを分かち合えたこと、大変うれしく思っております。

「笑顔のあふれるホームづくり」これからも頑張っていきたいと思っております。

特別養護老人ホーム 郁徳苑



「流行してます、ガーデニング」

苑長 中島 一栄

今、世間ではガーデニングが大ブームとなっているようです。郁徳苑でも熱心な職員を中心に、入苑者の皆さんが季節の花々や野菜を育てて下さっています。春にはスイートピー・チュ

特別養護
老人ホーム

フォレストホーム

「花いっぱい育て隊」

特養介護課 平岡 愛



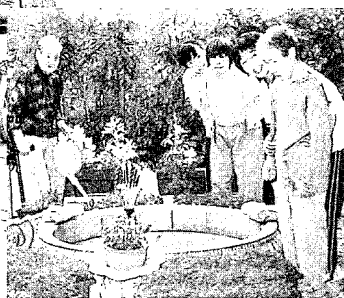
フォレストホームの各階のベランダには、赤・白・黄色の色取り取りの花が咲き乱れ、ガラス張りの食堂からは、四季折々の花が見え、季節を感じて頂いています。

水遣りや草むきなどは、未熟な職員の手際の悪さに逆に教えていただいたりすることも多々あります。五年前、各階にベランダ庭園を作ったおかげで気軽に外に出ることができ、天気の良い日などは入居の方もベランダに出て、一緒に花の手入れをしています。机の上にプランターを乗せるなど、車イスの方でも手入れがしやすいように工夫し、日々の成長を入居の方・職員共々楽しみにしています。

毎年マリーゴールドとサルビアを育て、「生駒市の花と緑の街づくりコンテスト」に出品させていたのですが、今年は惜しくも賞は逃しましたが、職員、入居の方にとっては良い思い出となり、励みにもなります。現在もマリー



「ゴールドやサルビアをはじめ、さまざまな花を育てている最中です。また、気候の良い時期には「花のまち最中です。また、気候の良い時期には「花のまちづくりセンター」ふるらむへ、ピクニックに出かけています。色とりどりの花が咲き乱れる中でお茶会を開いたり、日向ぼっこをする事を楽しみにしておられる入居の方も多く、これからもいろいろな花に挑戦していこうと、入居の方と話しています。



「リップ、夏には向日葵・朝顔・胡瓜・茄子・プチトマト、秋にはコスモスなどなど。朝夕の水遣りにはたくさんの方が参加され、植木鉢やプランターには、常にたっぷりの水分が、（それはもう、根腐れしないか心配するほどに）。

日々、成長していく植物たちを見守る、皆さんの優しい眼差し。昔、畑仕事をしておられた方からの的確なアドバイス。珍しい外国産の品種への尽きない好奇心。「この花の色は綺麗だから、種を取って来年また咲かそうか」「こっちのトマトの収穫は、もうちょっと赤くなってからやなあ」「ちゃんと草取りせな、栄養全部とられてしまいよるで」と、賑やかな声が苑庭に響きます。

みんなの目を楽しませ、楽しい会話の糸口にもなっているガーデニング。ブームは、まだまだ続きそうです。

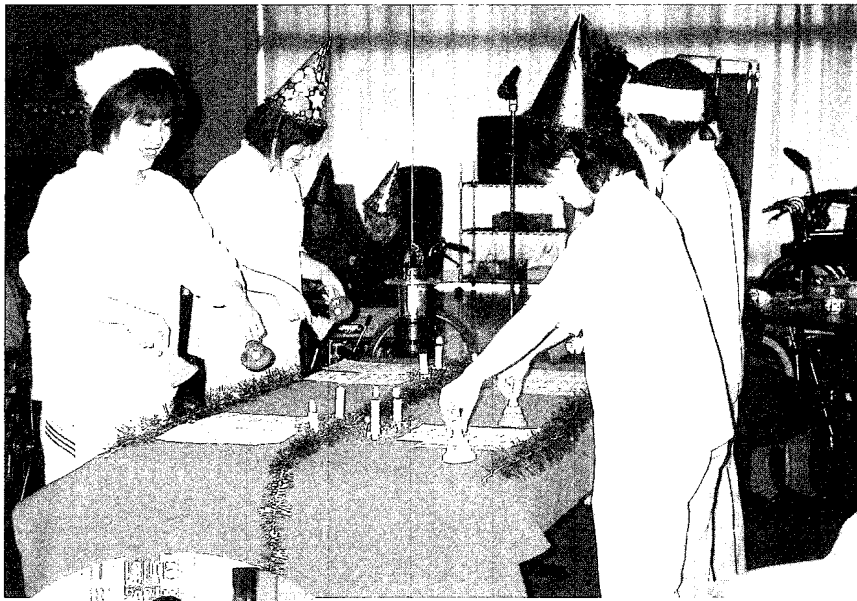


デイサービス 特集

デイサービスセンター 和楽園

「ゆったりとした空間に笑顔いっぱい!!」

施設長 高橋 央生



檀原園デイサービスセンター



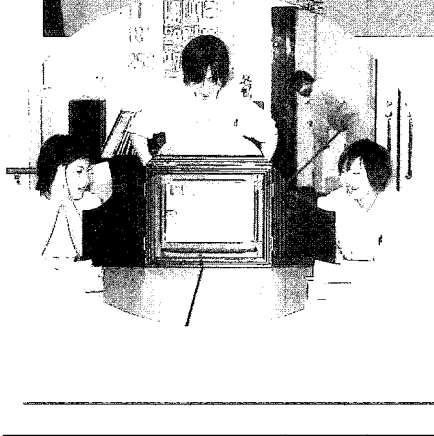
「楽しみのあるデイづくり」

施設長 大森 岩一郎

檀原園の通所介護事業（デイサービスセンター）は、平成十一年十一月一日に開設し、早四年目を迎えました。その間に、公的介護保険制度が発足し、当センターでも、利用者本位のサービス提供を基本理念に皆様に喜んでいただけるよう、様々な取り組みを行ってきました。なかでも私たちは、楽しみのあるレクリエーションの充実に重点を置き、季節ごとの行事やおやつ作り、檀原神宮の菊花展見学やバスハイクなど、施設内外で楽しんでいただけるよう工夫しています。

また最近では、音楽療法や地域の方々のボラティアグループとの交流を通じ、歌ったり、リズム体操をしたり、世間話に花を咲かせたりと、楽しいひとときを過ごしていただいています。レクリエーションでの対抗戦ゲームでは、双方が盛り上がり、楽しい笑い声が聞こえるようになりました。『今度はいつ?』と訪ねられている利用者の方の笑顔は、本当に楽しそうです。

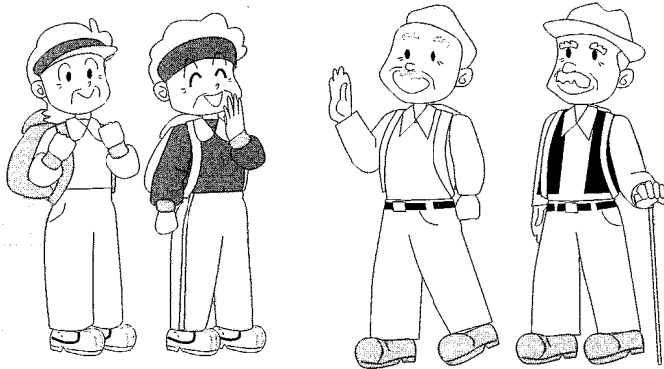
私たちはこれからも、利用者の皆様の笑顔や笑い声が、もつともつと増えるよう、楽しみのあるデイサービスセンターにしていきたいと思っています。





奈良県護国神社のすぐ北側にあり、東には若草山・高円山を真近に臨む：そんな豊かな自然に囲まれた場所にデイサービスセンター和楽園はあります。現在、社会福祉法人奈良市和楽園は養護・特養老人ホーム・ケアハウス・在宅介護支援センター、そしてデイサービスセンターの五つの部署を設置しています。当センターは月曜～土曜の六日間営業となっており、奈良市内の様々な地域の皆さんにご利用頂いています。特に利用者の皆さんにご好評なのは、ハード面では広々とした空間のデイフロアと入浴場です。ソフト面では、いつも笑顔を決やさないスタッフ達がお待ちしております。午前は健康チェックを終えた後に、入浴をしていただき、旬の食材を取り入れた昼食を食べていただいた午後からは、ご自由に参加していただける多彩なレクリエーションで利用者の皆さんに楽しんでいただいております。

また、季節ごとの行事も開催しており、隣接の護国神社への散策や、お花見ドライブなどほっともご好評をいただいています。いつもデイフロアの空間が笑顔と元気でいっぱいになるようにスタッフ一同これからも頑張つて行きます。



老人デイサービスセンター都祁すずらん苑

苑長 新谷 マリ子

老人デイサービスセンター都祁すずらん苑は、大和高原の緑に囲まれた農村地帯に位置し、平成九年四月にB型デイサービスとして定員十五名でスタートしました。ご利用者は、都祁村在住の方が多いのですが、山添村、月ヶ瀬村、桜井市豊森地区といった遠方からも多く来られています。週一～二回デイサービスで顔を合わせ同じ時を過ごす仲間として、昔からの知り合いのように会話もはずみ交流を広げておられます。また、デイサービスをご利用されるようになって家庭内での会話が増えたといった嬉しい報告をご家族からお聞きしました。

朝のお迎え後、湯茶サービス、健康チェックを終えた後は全員で行う、楽しみにされているレクリエーションです。決して強制ではなく参加さ

れない方は、ご自由に他の事を楽しんでいただくのですが、ほとんどの方は参加されています。体を動かす運動的なものを中心に頭脳的なクイズ・パズルや手芸・工作・作品作りを週替わりで行っています。また、買い物や散歩、季節感を取り入れた花見・雛祭り・秋のお茶会・クリスマス会等も好評です。中でも楽しみにされているのは年一回の遠足です。今までも大仏殿の見学・上野市での陶芸体験・壺阪寺拝観等、少人数でのんびりと過ごしていただけたよう曜日ごとに外出計画を立て実行してきました。今年も明日香村の万葉文化館を見学し、食事・買い物を楽しんでいただきました。参加後、「楽しかった」「良かった」と利用者間の会話もはずみ、「来年はどこ行くの?」と次回への期待も高まっています。外出するレクリエーションは各施設の関係者・利用する店舗の方々の協力があつて安心して実行できる行事なので、協力していただいた方々には本当に感謝しています。

ご利用者の方々が「来て良かった」「また来るね」と、笑顔で言ってくれる言葉を励みにして、楽しみにしていただけサービスを提供したいと思えます。

新施設紹介

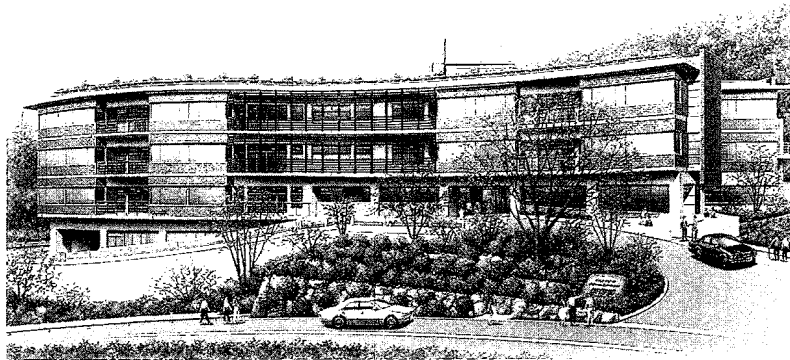
養護老人ホーム

梅寿荘

「いい住まいができました」

施設長 高田 裕之

平成十四年四月以降に新設された施設です。よろしくお願い致します。



今年四月特別養護老人ホーム梅寿荘の移転とともに新しく二十人の養護老人ホーム梅寿荘ができました。どうぞよろしくお願いいたします。まつさらの一年生です。特養から移られた方や新しく仲間になっていただいた方々で出発当初からにぎやかに満員です。職員ははじめての経験で戸惑うことも多かったのですが、そこは歴史を重ねられた人ばかりで教えてもらうやら寛容に我慢していただくやら、皆さんの言葉には尽くせないご協力で大過なく半年を越させていただきました。

すべて個室という恵まれたしつらえの中、ゲストお一人おひとりのがのびのびと生活しておられるのが我々職員の唯一無二の喜びです。特養でのユニットケアに近い二十人のグループですと行事や皆様のご要望にすぐにお答えできることが本当に喜ばれております。ひとつの例をあげますと外食会などは前日に皆様のニーズをお聞きしすぐ行動に移れます。先日も焼肉屋さんとしやぶしやぶ屋さんと同転寿司屋さんと同じ日に行きました。実によくお食べになりました。こんなことは大所帯ではかなり難しいことでしょう。

ケアハウス スローライフ 生駒

事務長兼生活相談員 竹鼻 俊策



皆さんこんにちは、このたび生駒山の中腹に位置し、生駒市内が一望できる所に、六月二十日オープンしたばかりの施設「スローライフ生駒」です。

入居者の定員は三十名と小規模な介護付ケアハウスです。五月にオープンが決まりました。入居募集から始まり面接、契約、職員の募集、施設開始のさまざまな準備と、てんてこ舞いの毎日で、職員も決まりました。おかげをもちまして、十一月十六日に満室になりました。当施設はケアハウスですが、今までのケアハウスに、要介護者等でも利用できる特定施設



ケアハウス
愛の故郷

そして日常の健康管理もきめ細かくチェックできますので嗜好の品もその人に合わせて制限することなく楽しんでいただいております。毎食焼酎を楽しむ方もあったりにぎやかなものです。

お部屋も個人の思いの詰まった内装に出来上がります。もう植物園かと思わせるお部屋や今は無き夫人との思い出の品に囲まれた室内やらでバラエティーに富んでおります。過去にいろいろな歴史を重ねられた方々の終の住処をご提供できた思いで一杯です。

これからのいろいろな形にどんどん変化していく梅寿荘、皆様どうぞその証人になっていただくとともにこれからの私たちに大いにご教示ください。

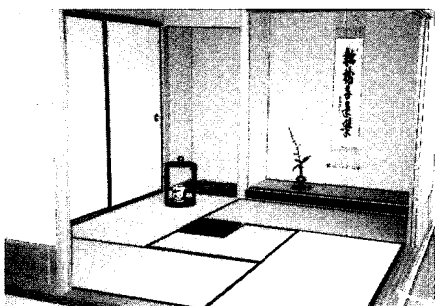
平成十四年四月一日、北葛城郡の上牧の丘に、ケアハウス「愛の故郷」を開設させて頂きました。

当施設の敷地内には、服部記念病院、特別養護老人ホーム等を併設しており、利用者の皆様には健康面や終身に至る迄、安心して過ごして頂いております。

“みんなの愛につつまれた、最後のふる里”という思いを込めて「愛の故郷」と名付けられました。季節を感じさせる豊かな緑に包まれ、ゆったりとしたスペースの中でオール電化対応を万全にし、又、茶室や悠遊ホール等、趣味やお仲間との交流の場を設けております。四季折々の行事では、苑庭で食事をして頂いたり、イベントホールでの催しを楽しまれたり…と、ご自分のペースで穏やかな日々を過ごして頂いております。

職員一同、ゆとりを持た、優しさのある気持ちのよい笑顔で対応を…と、日々努めております。

今後とも、皆様の良き御指導と御協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



施設長 服部 倫栄

で、入浴、排泄、食事等の介護等のサービスの提供をします。特に、元一流ホテルのシェフが高齢者に適したメニューの食事の提供します。看護師・介護職は、若い職員がお世話しています。レクリエーションは、誕生会・焼肉パーティー・花火大会・敬老会・音楽会を、外食会では、入居者の希望でお好み焼き・回転すし、中華料理を、趣味の会は七つあり、その中でもカラオケ・手芸・書道クラブが人気があります。他に買い物ツアーで百円ショップ等も実施しまして入居者の皆様が楽しく喜んでもらえる企画を考えていきたいと考えております。

まだ、駆け出しの施設です今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

編集後記

施設や機関に属していることからか、地域やコミュニティケアの重要性は認識しつつも、往々にして法人・事業所の基準で物事を考えがちになってしまいます。ましてや、県単位、という視点は縁遠い存在と言えるでしょう。

県内全域に働きかけることは、先ずもって「奈良」を知ることから始まるのではないのでしょうか。普段、私たちはただ奈良のことを知っているのか、一つの問い掛けの切っ掛けとなりました。

今回の編集作業を通し、「奈良」というものを強く意識するとともに、改めて知った風土、歴史、文化など、大和という地方がもつ捨て難い味と香り。例えば、各施設や事業所紹介の中にある、一つ一つのアピールと垣間見える地域の風情。そんなところからも充分に奈良を知ることができ

携わることに、より感じ得られた“再発見”の一つです。

